

【理念】

医療と福祉の連携をとり、介護員、相談員、ケアマネジャー、医師、看護師、栄養士、歯科衛生士それぞれの専門性、独自性、応用力を活かし、一貫したケアを行い入居者様が安全かつ安楽な生活を送ることが出来るように努める

【目標】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
- ② 皮膚トラブルの予防に努める。発生時は適切な処置を実施し早期治癒を目指す
- ③ 感染症の予防と拡大防止
- ④ 看取り介護の質の向上
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
- ⑥ 経費削減に努める

【実践報告】

- (1) 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
 - ・ロング入居者様、SS利用者様とも毎日2回の検温（午前、午後）を継続している。退院後や特変時も随時VS測定を行い、異常の早期発見、対応に努めた
- (2) 皮膚トラブルの予防と改善に努める
 - ・終末期における褥瘡予防と褥瘡治癒を目指し、介護員と連携し改善に努めた。
- (3) 感染症の予防と拡大防止
 - ・コロナならびにインフルエンザの感染内容については9月23日にコロナ陽性1名、10月20日からインフルエンザA型陽性4名、12月15日からコロナ陽性16名、令和6年1月28日にコロナ陽性1名を確認した。重症化はせず終息を迎えている。2月から3月にかけては嘔吐者が続いたがノロウイルスを疑うような症状はなく翌日には体調改善していた。
 - ・自己の健康管理を徹底し感染防止に努める
- (4) 看取り介護の質の向上
 - ・令和5年度は20名の退居のうち12名が看取り介護支援での看取りとなった。コロナ禍ではあったが付き添い希望のご家族様には環境の調整を行い最期の時まで入居者様と過ごせるよう支援を行った
- (5) 接遇・礼儀の徹底に努める
 - ・職員による接遇チェックを定期的におこなっている。やや改善傾向と思われる。今後もお互い注意し合える職場環境を目指していく
- (6) 経費削減に努める
 - ・コロナとインフルエンザの集団感染の対応に伴い経費が増大した。感染を最小限に止めることで経費を押さえたい

令和5年度 病院受診者数と受診内容

	受診者数 (入院者数)	ロング入居者様の受診内容							ショートステイ利用者様の受診内容						救急搬送
		発熱	心不全 心疾患	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	発熱	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	
R05 4月	13 (1+0)			1		4	1	6		1		3	3	7	
5月	12 (2+0)	2				2	3	7				2	3	5	
6月	12 (2+2)				1	5	3	9	1			1	1	3	
7月	9 (4+0)	1	2				5	8				1		1	
8月	12 (3+2)	1	1	2		3	1	8	1			2	1	4	1+①
9月	14 (0+0)			2		5	5	12			1	1		2	
10月	20 (1+0)			1		3	12	16				4		4	1
11月	10 (1+1)					4	4	8		1		1		2	
12月	13 (2+0)	1	1		1	5	1	9				3	1	4	
R06 1月	16 (2+0)				1	5	4	10				2	4	6	
2月	8 (1+1)	1		1		3		5				2	1	3	①
3月	14 (3+1)				1	4	3	8	1		2	3		6	
合計	153 (22+7)	6	4	7	4	43	42	106	3	2	3	25	14	47	4

令和5年度 受診動向のまとめ

特養ホーム 医務

令和5年度におけるショートステイ利用者様（以下SS利用者様）、ロング入居者様（以下入居者様）の受診動向の確認を行いました（別紙資料1をご参照ください）。受診者数、受診内容を確認することで傾向と対策を見出す手がかりとし、令和6年度における受診をさらに減少できればと考えます

SS利用者様の受診総数は47件で昨年度より12件減少しました。8割は定期受診と入居時の健康診断のための受診でした。入院件数は7件で3件増加し内容は誤嚥性肺炎が3件と転倒による骨折、嘔吐、てんかん発作、急性心不全による急死の4件でした。

SS利用者様は短期の利用のため状態把握が難しいですがSS利用中に起こる異常の早期発見と対応で早期に受診、加療が受けられるよう努めることで利用者様やご家族様の安全や安心につながると考えます

入居者様の受診総数は昨年度よりさらに14件減少し今年度は106件でした。内容は昨年度と変わらず同一入居者様の定期受診が半数を占めており次は皮膚科に関連した初診受診でした。発熱に関連した受診は6件でコロナ感染等による影響はみられず大幅な減少となりました。結果、救急搬送件数も17件から4件こちらも大幅な減少となりました。今後も的確な判断のもとに救急要請を行ってゆきたいと思えます

今年度のコロナに感染された入居者様は解熱剤のみまたは抗生剤併用で重症化せず回復されています。クラスターにはなりましたが適切なゾーニングで階下への拡大はなく隔離期間も前年度よりやや短縮されていたと思われます。SS利用者様から発症したインフルエンザ感染も4名で終息しました。日々、感染症に留意をしなければならない現状が続きますが、まずは職員が自己の健康管理や感染対策の徹底、環境調整等を継続的に行うことが必要であると認識することが重要かと思われます

令和5年度の退居者数（ロングSSも含む）

*退居者総数

20名

病院死亡者数	4名	（重複あり）
ターミナルケア加算 死亡者数	13名	（重複あり）
ターミナルケア加算外 死亡者数	0名	
転院者数（入院後、施設に戻れず転院）	4名	